

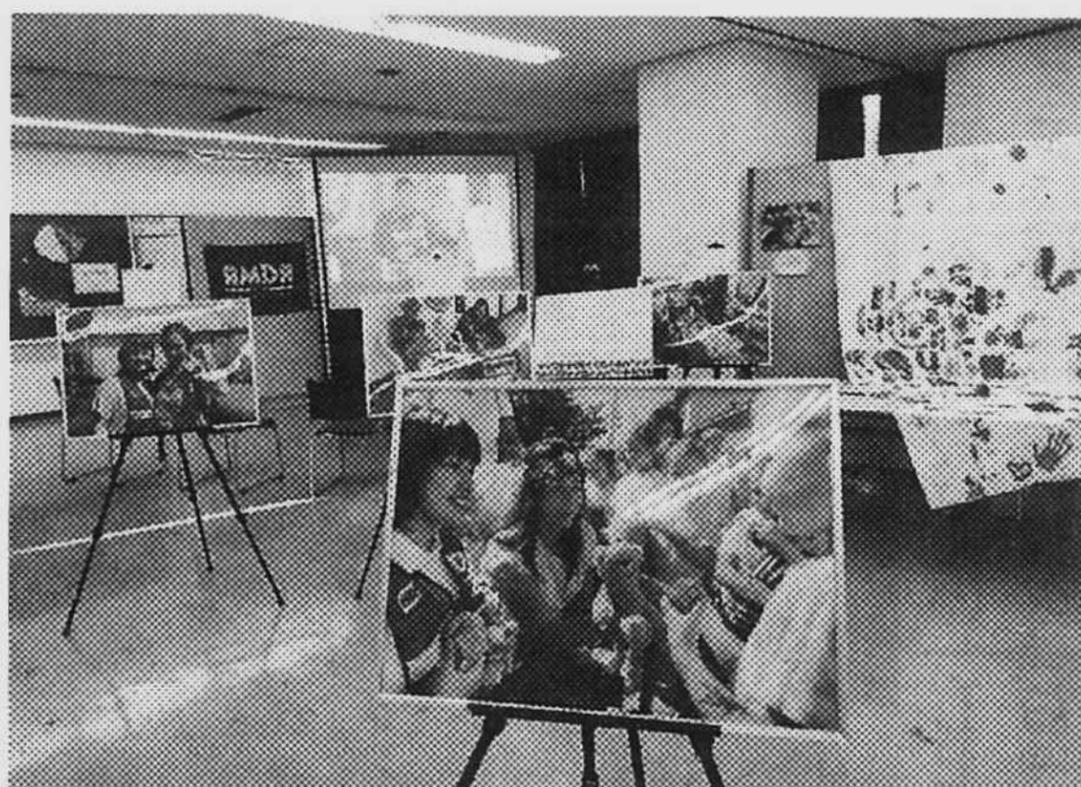
ウクライナ支援写真展

A M D A が堺市で開く

ハンガリーでウクライナ避難民の医療支援に取り組む認定NPO法人A M D A（本部＝岡山市）は2日から4日まで、大阪府堺市のコクリコさかいで写真展「写真で語るウクライナ避難者支援」を開催した。

法人TICO（本部＝徳島県吉野川市）と合同医療チームを作り、これまでに医師5人、看護師6人、調整員3人をハンガリーに派遣した。主な活動地は多くのウクライナ人が避難する、国境近くのベレグスラーニーやキシュバルダ。またウクライナ国内避難者へも医薬品や医療機器、食品や車両などの支援を行っている。

治療の様子や、子どもたちとのふれあいの模様を大きな写真パネルで展示。「私は毎日神に祈ります。それがすべて悪魔のように私たちに起こるのは残念です」といった避



治療や交流の様子を展示。子どもたちの絵も

難民からのメッセージも紹介された。布キヤンパスに子どもたちが手形や国旗をのびのびと描いた平和を願う絵も。何度も現地入りをして

いる難波妙理事は「ウクライナの人も、こうなる前は教会に行って何気ないお話をして暮らすのが日常だった。今はそれもできず、心の拠り所を失っている」と危機感を募らせ、日

本の宗教者にとっても決して遠い国の他人事ではないと話した。

写真展は本部のある岡山市で8月に行ったのに続く2回目。堺市の浄土宗正明寺の森俊英住職が、檀信徒からのウクライナ人道支援浄財をA M D Aに寄付したことから縁が生まれての開催となった。「実際に我々がハンガリーやウクライナに行くことは難しくても、活動する人を支援し、その活動を市民の皆様へ伝えるのも宗教者の役目ではないでしょうか」と森住職は話す。